笠岡市教育委員会 5月定例会 会議録

1	開会年月日	令和6年5月17日（金） 午後2時02分
2	場 所	笠岡市教育委員会会議室
3	出席委員等の 氏名	教育長 岡田 達也 委員 藤谷 幸弘 東山 琴子 西崎 倫子 杉本 和歳
4	欠席委員の氏名	なし
5	会議に出席した 者の職・氏名	教育部長 森山 一成 教育総務課長 松尾 千鶴 学校教育課長 後藤 嘉孝 生涯学習課長 石井 善子 スポーツ推進課長 土屋 武之 給食センター主任主事 宮 恭子 学校教育課参事 出口 浩子 教育総務課課長補佐 藤代 幸弘
6	付議案件及び 議決状況	議案第11号 学校運営協議会委員の委嘱又は任命について 議案第12号 笠岡市文化財保護委員の委嘱について 議案第13号 笠岡市社会教育委員の委嘱について 議案第14号 公民館運営審議会委員の委嘱について 議案第15号 笠岡市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び任命について 議案第16号 笠岡市教育委員会教育長の辞職同意について 報告第1号 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について 報告第2号 笠岡市立カブトガニ博物館運営委員会委員の委嘱について 協議報告事項 別議案紙のとおり
7	会議の状況	別紙のとおり
8	閉会年月日	令和6年5月17日（金） 午後4時08分

議事録署名委員 教育委員 東山 琴子

教育委員 杉本 和歳

会議録を調製した職員 松尾 千鶴

会 議 の 状 況

1 開 会 （岡田教育長）

2 前回議事録（定例会）の報告 （藤代課長補佐）

令和6年4月定例会

令和6年4月19日（金）午後4時2分から、教育委員会会議室で開催

出席者は、藤谷委員，東山委員，西崎委員，杉本委員

審議案件は1議案

・議案第10号 笠岡市スポーツ推進委員の委嘱について

閉会は、同日の午後6時8分

3 教育長の報告（挨拶）

改めまして、こんにちは。新年度がスタートして、2か月が経とうとしています。今の子ども達の様子について報告します。

今は学校行事等と言うと、小学校はこの18日（土）が、ほとんどの学校で運動会を開催する予定です。コロナの中で行事の見直しがあったせいか、午前中で、地域とは別に学校だけで行う学校がほとんどです。小規模校の何校かは地域と一緒にやる学校がありますが、多くの学校は学校だけで、午前中で終わるという風になっています。笠岡小学校と金浦小学校の2校が1週間後、25日に運動会を開催することとなっています。

そして、中学校については修学旅行ということで、コロナの時に比べれば、今はこれまで行っていた所に行くような形に戻っています。安全に行ってきていただくということで、特段皆さんに気になる報告はありません。

ただ、先週から今週にかけて、小中学生の登校中とかの交通事故が全国でいくつかありました。ある地域では小学生が登校中に、横断歩道を青色で渡っているのに車が突っ込んできたということもありました。再度学校教育課の方から、交通安全に関してしっかりと意識を持つ、横断歩道が青でも自分で確認しながら渡る等という指示を、学校に向けて出していただいています。しっかりと安全管理をしていただきたいと思います。

そしてもう1点指示を出しているのが、笠岡も昨年度にありました教職員の不祥事の報告が、スマホ関連で、丸亀市の小学校の教諭が、岡山市では小学校の講師がSNSを通じた投げ銭、お金が儲かることに対しての申告がなかったということで処分をされていました。この点に関しても、学校教育課の方から服務管理の徹底ということで指示をしています。

それから、子ども達の様子ですが、何校か訪問してみると比較的落ち着いて、1年生も授業に馴染んでいるなど思っています。特段これといって気になるような報告は、学校からは受けていません。ただ、やはり運動会のシーズンになってくると、運動が苦手な子が少しブルーになる時期、そして、多くの学校では6月になったら梅雨になるので、少し学校渋り・登校渋りが増えるのです。ですから、この点が気になっています。今現在行かせていただいた学校は、どの学校も非常に子ども達が意欲的に楽しくやっているなどという感想を受けるのですが、やはり個々で見ますと、気になる子が少しずつ出だしたかなという印象を持っています。これも、学校教育ビジョンとして令和の日本型教育、つまり1人1人に居場所があって、そして、子ども達が1人1人の学びを進める、協働的な学びを進めていくということをしているので、各学校と一緒にまた進めていきたいと思しますので、このことについて気になることがありましたら、今後の教育委員会定例会でまた報告をさせていただきます。今現在はそういった状況です。

4 議事録署名人の指名（東山委員，杉本委員）

5 議事

議案第11号 学校運営協議会委員の委嘱または任命について（学校教育課）

後藤課長 資料議11-2からご覧ください。笠岡東中ブロックから順に、市内6中学校ブロックと北川小学校の学校運営協議会の委員名簿を示しています。令和3年度から、市内中学校6ブロックと北川小学校において、学校運営協議会をスタートしています。1校につき1つの運営協議会ではなくて、中学校ブロックなので、構成人数も多少のばらつきはあります。なお、議11-10からは参考として、設置等に関する規則並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律を掲載しています。ここで承認いただければ、6月上旬からの第1回目の会合を随時開催していきます。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

議案第12号 笠岡市文化財保護委員の委嘱について（生涯学習課）

石井課長 資料は、議12-2から議12-3をご覧ください。このたび、任期2か年の満了に伴い、笠岡市文化財保護委員の次の期、令和6年6月1日から令和8年5月31日までの、2か年の文化財保護委員を委嘱することについて諮るものです。定員ですが、議12-3にあるように、第3条に

20名以内であり、資料議12-2に示している委員は、全員継続・再任で、引き続き委員をお願いしたいと考えています。人数については8名となっています。なお、議12-3は参考の関係法令で、文化財の保護や活用、それから調査研究といった内容を審議いただくメンバーとなっているものです。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

議案第13号 笠岡市社会教育委員の委嘱について (生涯学習課)

石井課長 資料議13-2, 13-3をご覧ください。任期2年の満了に伴い、令和6年4月1日、今年度から2か年の社会教育委員を委嘱することについて、諮るものです。委員名簿ですが、議13-2に記載しているとおり定員が10名以内となっていて、このたび学校関係、それからPTAの関係で、新任は3名の方になっているものです。各種団体の役員交代等があったので、それに伴う選任です。社会教育委員についてですが、学校教育関係者や学識経験者、社会教育関係者、または家庭教育の向上に資する活動を行う方々を委嘱させていただいています。社会教育に関する教育行政について、助言をいただく役割を果たしていただいているものです。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

議案第14号 公民館運営審議会委員の委嘱について (生涯学習課)

石井課長 資料議14-2から議14-16までをご覧ください。公民館運営審議会委員の委嘱を、教育委員会で行っています。推薦団体等の役員が決定して、公民館職員等候補者推薦委員会にて推薦・選出した候補者から順次諮るものです。任期は2年ですが、委嘱日令和6年4月1日付の方についても、令和5年度から始まっている人の任期に合わせて残任期間という形で、一旦は令和7年3月31日までという委嘱にさせていただくものです。資料の名簿、議14-2からですが、アンダーラインで示している方々が今回諮る委員候補者となるものです。まだ市内21館、中央公民館も含めて運営審議会委員がいますが、こちらはちょうど今が年度変わり、各種団体の役員や学校等での異動の関係上、もう何か月かにわたって

順次、委員の委嘱を諮らせていただく予定です。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

議案第15号 笠岡市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び任命について

(学校給食センター)

宮主任主事 本日配布の議案第15号をご覧ください。提案理由にもあるように、このたび推薦団体の役員変更、それから人事異動等によって、前任者の残任期間の運営委員を委嘱及び任命しようとするものです。議15-2に名簿があります。委員8名のうち4名が新任となるので、その新任委員には前任委員の残任期間の令和7年6月3日までお願いするものです。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

議案第16号 笠岡市教育委員会教育長の辞職同意について (教育総務課)

非公開

報告第1号 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について (教育総務課)

松尾課長 資料報1-2をご覧ください。笠岡市共同募金委員会様から、今年度の小学校に入学された1年生に対して、タブレットケース300個の寄贈をいただき、3月19日に感謝状を渡したことを報告させていただきます。今お手元の方に渡っているのがダブルケースの現物ですが、黒のタブレットケースになります。令和3年度よりタブレットケースを寄贈いただいています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

報告第2号 笠岡市立カブトガニ博物館運営委員会委員の委嘱について (生涯学習課)

石井課長 資料報2-2から報2-3をご覧ください。こちらの運営委員会では15人以内の委員で組織し、委員についてはカブトガニ博物館に関する事

業計画等の審議・意見等をいただくものです。このたび、任期2年の満了に伴い、今期令和6年6月1日から令和8年5月31日までの委員の委嘱について人選が整いましたので、報告するものです。こちらについては、前期と異なるのが3番なのですが、笠岡商工会議所女性会、こちらの組織からも1名新たに推薦をいただき、委嘱をするものです。背景としては、カブトガニ博物館の向かうべき方向性の1つとして、自然史博物館というたてりだけではなくて、笠岡市の観光とかシティセールスといった分野も、カブトガニが担う役割の1つになってきているので、観光部門の方、それから女性の視点という観点から、女性会の方からの選出はどうかという助言もあり、そちらを受けてこのたび推薦団体を1名増やして委嘱をしたものです。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

藤谷委員 聞き漏らしたかも分からないのですが、資料報2-2の10番の、津田さんのところの備考の記載はどういう意味ですか。

石井課長 こちらについては、ロータリークラブの任期で、会長職の方の任期が6月31日までとなっています。7月1日付けで、資料記載の方へ委嘱換えをしていただきたいとお申し出が団体からありました。今日の委員会でこのことを承認いただきましたら、7月からはこちらの藤井さんに変更させていただきます。以上、補足説明とします。

岡田教育長 それでは、皆様の方から他によろしいですか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 それでは、ご承認いただけますか。

教育委員 (異議なし)

6 協議・報告

(1) 学校規模適正化計画及び施設一体型一貫教育校の整備計画について (学校教育課)

後藤課長 机の上に本日配付の、平成26年度の学校規模適正化計画と令和2年3月に改訂された冊子、それから笠岡市の小中一貫教育推進計画、同じく令和2年3月に作成されたものが置いてあります。これからの説明をする前に、これまでの学校規模適正化のこと、それから小中一貫教育についてのこれまでの経緯を教育長がよくご存じなので、少し説明をいただいてから、私が説明をさせていただきます。

岡田教育長 笠岡市で何か計画を作る時には、必ず教育審議会という色々なお立場の方が入った審議会を立ち上げて、1年から2年ぐらい検討していただいて、その答申を教育長が受けて、事務局が案を、教育委員会を中心につけていきました。それを元にできたのが、平成26年3月に作った笠岡市立

小中学校の学校規模の適正化計画です。そこには島しょ部の中学校だけでなく陸地部の学校、具体を言うと陶山小学校、それから新山小学校等が入っていました。それです、今井小学校も対象だったので、平成26年度は今井の方にも行きました。そして、私は平成27年から学校に出たのですが、その平成27年11月だったと思いますけれど、5年間の保留期間ということがありました。これはなぜかと言うと、当時国として、やはり地域の人口を増加させる、まち・人・しごと創生総合戦略というものが全国的に行われて、それを受けて5年間保留、つまり5年間そういう地域の活性化、人の流れを作ろうということで保留になりました。適正化計画はそこで5年間は保留なので、進まないという状況でした。次の年に選挙があって、小林前市長が当選されて、小中一貫教育ということ、敬業校ということで話があって、急な話だということで色々意見がありました。教育委員会で議論されて、例えば笠岡小学校の敬業校の中に中学校を入れるのは大変だから、笠岡幼稚園を入れていって、幼稚園と小学校を繋いだ施設を作ろうという案が、教育委員会と前市長さんの間で出てきました。それに対してもまた色々な意見があったのですが、次の平成29年の7月末の浅野教育長退任後、私が教育長を拝命しました。そこで課題になったのは、今度は小中一貫教育を、笠岡小学校に幼稚園を入れたのではなくて、やはり全市的な、ちゃんとした形の小中一貫計画を作らないといけないという命題があって、それを受けて、10月6日だったと思うのですが、同じように小中一貫教育に関わる審議会を立ち上げて、答申をいただくように諮問しました。それで、確か次の年の12月ぐらいに答申をいただいて、計画を令和2年3月に作りました。同時に、平成26年3月から保留状態だった学校規模適正化計画が、ちょうど令和2年度末が5年間経過ということで、その見直しを同時進行で行いました。そして、今に至っています。その中で、小中一貫教育は令和5年度から、全市の6中学校ブロックで行っています。しかし、学校規模適正化をきちんと形を整えた上で、一貫教育という流れがやはり一番適切な流れなのですが、それを同時進行したために、ここが微妙に絡み合っていて今現在に至っています。特に金浦の一体型一貫教育校に関しては、陶山小学校区の子ども達、保護者の方々、地域の方々が、今現在どうなるのだろう、あそこにできなかった場合に適正化はどうなるのだろう、同じように新山小学校区の子ども達、保護者の皆さん、そして地域の皆さんも同じように思われています。そこを踏まえて、しっかりと教育委員会として見直しを行い、きちんと説明をしていく必要があると個人的に思っています。ただ、組み合わせばかりメインになっているのですが、なぜしなければいけないかというところの理念

とか、考え方がきちんと明記されています。それは変わるものではないと私は思っています。形が変わっていくのは現実の中で変わると思いますが、あの理念は変わるべきではないと思います。こういう点を踏まえて、今後検討することになると思うので、具体については、学校教育課の方からお願いします。

後藤課長 できるだけ簡単に説明ができればと思います。市内の小中学校の児童生徒数の推移を挙げています。令和12年度には、全校児童生徒が100名を下回る小学校が14校中9校、中学校では7校中4校となっています。それで、今教育長から説明のあった、笠岡市立小中学校の学校規模の適正化計画の基本方針というものがあります。その中に、小学校は、1校あたりの学級数は少なくとも1学年1学級以上で、小学校1学級あたりの児童数は20名を目安とあります。中学校においては、クラス替えが可能な複数学級、クラス替えができる学級となるようにということで、学校規模の適正化に努めることとなっています。

岡田教育長 クラス替えができるというのは国の学級編成基準があつて、40名学級としたら41名要るのです。41名いれば2クラスになるから、20名と21名なので、それで小学校は20名が1クラスでも普通かなということで作ったということです。

後藤課長 このことから、現在市内全体の学校再編についての見直しを検討する必要があると考えています。ここの学校規模適正化計画の再編計画を見直すということは、小中一貫校の整備事業計画についても、併せて計画の再検討が必要だと思っています。学区の再編についてです。資料4をご覧ください。先ほども話があったのですが、笠岡の北部エリア、特に児童生徒数の減少が激しいエリアになります。北部エリアの小学校、北川小学校、吉田小学校、新山小学校の児童数の推移について、一番左下の吉田小学校、新山小学校を合わせた児童数、令和12年度の見込みをご覧ください。ほぼどの学年も10名を下回っています。学校規模適正化から言うと、20名というのが適正ということになっているのですが、かなり少ない数字になっています。

岡田教育長 そこで複式が発生するのですね。この左、吉田・新山を合わせた令和12年度、1年生9名、2年生5名、3年生5名で、5名5名で16名に満たないので、ここは2・3年生は複式です。そして、4・5年生も8名と5名だから、複式になります。つまり簡単に言うと、複式が2つできて、4クラス編成になるので、先生は2人減りますという形にもなっていくと思います。このクラスが減るとというのが結構大きいのです。

後藤課長 その隣、吉田小学校・新山小学校・北川小学校を統合した児童数です

が、ここについても20名まで届かない、10名は超えてはいるのですが、20名に届かない人数になっています。そこでその一番右端の人数、吉田小、新山小、北川小、これに大井小を加えていくと、各学年の人数が20名を超える数字となっています。

岡田教育長 何か委員の皆様から、ご意見とか感想でも構いませんので、何かありましたらどうぞお願いします。

東山委員 今井小学校が笠岡小学校と一緒になる前の説明会に私もお邪魔させていただきました。その際、いつ一緒になるかも分からないから、保育園やこども園を笠岡地区の方に行かせて、小学校にスムーズに上がれるようにということまで考えている保護者もいらっしゃいました。なるべく早めにきちんとした計画を提示してあげないといけないと思います。子どもの教育はずっと続いていくものなので、保護者目線でもきちんと捉えていただきたいと思います。あとは学校が地域からなくなることが、地域力低下に影響してこないかという点も気になっています。今井地区の方々、公民館などに私も調査をしに行こうかと思っているのですが、小学校がなくなることによって地域のつながりとか、地域力は下がっている部分があるのであれば、そういったところも踏まえて、学校と一緒になった上で、何かプラスになるような策も練らないといけないということも考えていました。

岡田教育長 本当にそのとおりだと思います。

東山委員 新山小については先ほど言われたのですが、もう1回考え直す要素として、本当に子どもの数が予想以上に減っているというところがすごく大きいのかと思います。

岡田教育長 新山と言うよりも、吉田小の減りがすごく大きいのですよ。

東山委員 その辺りのことも、私達でもどうしようもないようなところの要素もあるというところを訴えるのがいいのですかね。

岡田教育長 東山委員が言われるように、結局2つ合わせただけで十分な数にならないので、適正化で言うと、この2つをどこかの大きい学校に、北川ができないのであれば、大井でも良いのですがという話になることはあると思うのです。ただ、一応地域の方々は、新吉中に一体型一貫校というものを期待しながら待っているということも、1つの事実としてあるので、先日、にいやま「文化を楽しみ育てる会」が、閉会するというで行かせていただいた時にも、その話を個人的にはいっぱい、色々な人からされました。

藤谷委員 今日いただいた資料の5の、令和12年度のところの生徒児童数を見た時に、今までやってきた計画では少し難しいなと感じています。当初、今

の計画を立てた時は、この生徒数の推移は何年度までを想定していましたか。

後藤課長 6年先です。

岡田教育長 令和2年の3月からです。

藤谷委員 令和8年ぐらいですか。

岡田教育長 この時には、令和8年ぐらいです。

後藤課長 推移はこれにも載ってあるのですが、そんなには違っていません。

藤谷委員 今回の計画を立てた時、例えば4年前だとしたら、4年前から6年後を見越した値で計画をしていたけれども、今の時点に立って、令和12年までを見た時の数字がこれなので、見直しをしないといけない理由というのは先ほど東山委員も言われたように、改めて令和12年までの児童数を見た時に、今の計画を見直す必要があるようになったという、それが正直な理由だと思うのです。だから今教育長が言われたように、確かに地域の方はその時の説明を受けて、それで納得・理解をされているのだけれども、それで進めると、令和12年にはこうなって、当初の計画で言っていた複式をなくすことができない状況なのだと思います。要するに子どもの数というのは、私達はどうしようもないことであって、それを再度見た時に、令和12年までいった時に計画を見直す必要がどうしてもあるのだと思います。そこをお話ししていくしかないのかと思っています。それで理解が得られるかどうか分かりませんが、今の計画のまま行ったら、必ず、統廃合しても複式になっていくのが今はもう目に見えています。複式をできるだけなくして、大きな集団で教育環境を整えるための計画なので、見直しをする必要も理解してくださいというお願いをしていくしかないのかと個人的には思っています。

岡田教育長 西崎委員、杉本委員はいかがですか。結局計画は立てて、その年度にちゃんとそれができていれば、その時の数で推移していますので、こうはならなかったのですが、それが遅れることによって、どんどん数が減ってきているということによってこうなっているのです。適正化計画を小中一貫教育の一体型一貫校の計画等も含めた、帳尻合わせをするような見直しではなくて、理念は変わらない訳ですから、先ほどお2人が言われたように、結局、抜本的な見直しをした方が良いのではないのかと、すぐにそのとおりにできないではないですか。そうしたらまたそれが遅れます。今の人口の推移だと、また人数が減っていきますよね。となると、また同じことが何年か先に起こるということを考えた時には、やはり少々、2年・3年遅れても理念というものが実現できる仕組みを作る方が良いと思います。説明ができるなら、その違ってきたことに関しては、私達の見込みが甘かつ

たかと言われたら、それは謝罪をしてお答えするしかないですというのは正直思います。その方向で検討していただくことも必要なので、そこで本当に金浦が必要なら必要、北部が形が変わるのであれば変われば良いと思うのです。その辺はよろしいですか。これから本当にまた1歩踏み込んだ、笠岡の現実を踏まえた新たな見直しと言いますが、新たな計画を作り直すような気持ちでいくべきではないかというのは、多分理解いただいたと思うのですが、何かご意見があればお願いします。

杉本委員 まさにこの資料5ですが、当時の令和8年を目安にして考えていたものが、今は令和12年を目安にして考えなければいけないという、このことを考えると、今は令和12年のことを目安にするという、令和15年とか17年とかここら辺も、予想ですが埋めていたり、あとはそれぞれの小学校で、減少率は結構差がありそうだなと思います。都市部というか市街地は意外に減っていないということを加味して、数字は表せられそうだなというのとも思います。

岡田教育長 昨日ある方が教育部に来られた時に、大島小学校区の名切に20戸の住宅ができると言われていました。そこに住宅ができるということを知り、そう考えた時に、少し減ってまた増える可能性もあります。そういうことも影響してくると思います。今井の例で言うと、平成26年に計画が出ていて、平成27年度に説明に行きました。それで、昨年からは統合ということで9年かかりました。計画を作って説明して9年、つまり計画の時よりも遅れて統合しています。それが今の笠岡市の、良い悪いではなくて現実なのです。と考えると杉本委員が言われたように本当にプラス3年・4年を考えて、理解いただくにはかかると思うのです。としたらやはり本当に大きな小学校、中学校を、小学校も大きく北部方面、先ほどの大井も考えてというのは必要だなと思いますね。減り率を出すというのは良い判断だと思いますね。出生も今は、1年前が176人で、今回増えたとしても令和6年度は180人少しぐらいでしょう。200人行くか行かないかぐらいだから、それを踏まえて考えるのが現実でしょう。

東山委員 子ども達の教育を一番に考えてあげて、止まることなくなるべく早めにしてほしいです。

岡田教育長 基本的に教育委員会が出すものに関しては、地域づくりというものは関係するのですが、教育委員会が学校だけの、地域で学ぶ、地域とともに学ぶという理念を基にしながら、教育の在り方を一番に考えて作るということに関しては、合意形成できたということでもよろしいでしょうか。ですから先ほどから出ているように、説明して現実的にできるのは、その年度のとおりにならないこともあるので、少し前を見越して、データ上はないか

も分かりませんが、踏まえてやるということでお願いします。よろしいでしょうか。それでは、また今後この件に関しては、この年度内にある程度のものを示す必要があるのかと思いますので、よろしくをお願いします。

(2) 第20回笠岡市木山捷平文学選奨の作品募集について（生涯学習課）

石井課長 資料協2-1, 協2-2をご覧ください。第20回を数える木山捷平文学選奨にかかる作品募集ということで、今日はお手元に募集要項を2種類載せているものです。これからまたパンフレットをそれぞれ作って、応募用紙を添付したりして、手続きを進めていくところです。現時点で表彰式は、令和7年3月2日を予定するもので、これから夏休みを挟み、学校現場、それから地域の方に参加いただけるような募集を開始したいと思っています。今年度、第20回という区切りの年ということと、木山捷平さん自体が生誕120年という記念の年ということもあるので、このような文学選奨事業と併せて、今年度は木山捷平さんの顕彰にも、今まで以上に力を入れていきたいと考えています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

(3) 笠岡市立図書館の特別整備期間（蔵書点検）による休館について（生涯学習課）

石井課長 資料協3-1をご覧ください。こちらの2番目に書いてありますように、実施時期を5月の一番最終週ということで、5日間休館をして蔵書点検をする、これは、貸し出した図書等がなくなっているとか、劣化しているものがあるとか、破れているものがないかという点検を、この期間でやっていこうというもので、前は2月に実施をしていましたが、昨年度から5月・6月のこの時期を目指してやっています。既に事前の周知は始めているもので、その期間、貸し出し冊数や貸し出し期間を増やすことで、サービス低下を招かない対策を取りながら実施を進めていきたいと考えています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

(4) 本のリサイクル会の開催について（生涯学習課）

石井課長 資料協4-1・協4-2をご覧ください。6月が環境月間ということもあり、本のリサイクル会を開催します。大変人気の事業となっているのですが、図書館で不要となった図書や雑誌を無料で持って帰っていただき、有効に、資源の無駄にならないようにしてもらおうという、環境問題に

も興味を持っていただくといった企画となっています。5年度末までに除籍、ナンバーから落とした図書や雑誌ということ、それからそういった登録はもう必要のない図書を、笠岡市民の方を中心にお持ち帰りいただく企画ですので、もしよろしければお運びいただけたらと思います。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

(5) 子ども読書活動推進計画策定のためのアンケート結果(速報)について

(生涯学習課)

石井課長 資料協5-1をご覧ください。笠岡市子ども読書活動、子どもの読書の活動推進計画というものを今は策定していて、第2次の終わりが今年度、令和6年度までとなっていて、今年度の中に第3次を策定する予定で進めているところです。それに先立ち、昨年度末にアンケート調査を実施しました。対象者は市内の小学5年生、中学2年生、それから4歳児を持たれている保護者の方に分けて実施をしました。本日のデータについては、あくまでも速報値ということですので、まだまだ私どもの部署で具体的な分析には至っていないものではありますが、全体アンケートの一部の提示を今回させていただいています。計画上の目標値というものがあるのですが、4番の「その他指標」のところですけども、この推進計画の中では不読率、1ヶ月に1冊も本を読まなかった子どもの割合をなるべく低くし、本に親しむ時間、機会、人数というものを上げていこうというのが目標値になっています。前回の調査から言いますと、協5-2ですけども、上のグラフにあるとおり、小学5年生については平成30年度と比較して、目標値は本来なら小学生を5%に下げたいこうというような、99.2%から5%に下げたいこうという目標値を設定していましたが、結果としては今は10.5%ということで、目標からは離れていて、前回よりも読まない率が高まったという結果が出ています。一方で中学2年生については、15%にしようとの目標値に対し、15%には達成していないのですけども、27%から20%ということで、こちらについては幾分不読率の傾向が下がって、読書に親しむ時間、人が増えているというような結果になりました。その次の協5-3、こちらについては学校図書館、学校にある図書館の利用のこと、利用率、利用頻度についてを記載しているので、またこれは実際に学校図書館、学校にある図書館の意義とか活用の方策とか、そういったところでも不読率などのダウンを図れないかというようなことの参考資料でこのアンケートを取っているのです、またご覧になっていたいただきたいと思います。それから続いて協5-4、こちらは同じ読書で

も、市立図書館をいかに使用しているか、利用頻度、それから利用しない理由のようなものをこのたびピックアップして、これも社会教育の中で本に触れさせる機会、どういったところにしていったら良いのかということも含めてのアンケートの設問にした結果となっています。その他、協5-5からの資料は4歳児保護者についての、要は家庭教育の中でとかこども園等の園の中で、どう影響してくるのか、どういったことに関係してくるか、特に家庭教育の中でのことについての設問を記載しています。同じく、読書が好きであるとか読み聞かせのことであるとか、図書館を利用したことがあるとか、そういったことについて協5-6までを記載しているものです。保護者自身の読書時間はどうかということも含めて回答いただいています。それから最後、協5-7、こちらについては今回の設問で、電子図書の利用がどうかとか、ゲームといった図書とは違うようなツールでの切り口、いわゆる紙の本ではない切り口のところについて設問をしているもので、こういったことは今はまだ速報値ですので、これから学校別であったり園別であったり、もう少し複合的に結果を分析して整えて、また皆様方に提示できたらと思います。まずはこういった学校現場、それから学校司書、同じように図書を扱う行政サイドの方と共有をして、数値の背景も含めて分析を進めていきたいと思っています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

岡田教育長 先ほど課長が申しましたように、分析等についてまた説明させていただく機会があると思いますので、よろしくをお願いします。

(6) 国指定重要文化財「小野竹喬筆 波切村」公開セレモニー(仮称)について

(生涯学習課)

石井課長 資料協6-1をご覧ください。これは以前の教育委員会定例会で一度ご説明したと思うのですが、この度竹喬美術館では、竹喬美術館が所蔵する小野竹喬作品で「波切村」という作品、こちらが国指定重要文化財の審議のため東京へ出ていましたが、いよいよ笠岡へ戻って来ます。国の重要文化財に指定されることは既に公表があったので、皆さんも一度目にしたことがあるかと思いますが、具体的に正式な指定については、本年の6月から7月の官報という国が発出する資料での公示をもって正式となるものです。現在、右にあるように、竹喬美術館で開催中の企画展の、今度は後期の展示会の初日、5月25日には、資料のとおり一般公開のセレモニーを実施する予定です。記念講演も併せて催すので、是非とも来館をいただきますとともに、会期中には本物の作品を直接鑑賞いただけたらと思いま

す。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

(7) 令和5年度の残食率について (給食センター)

宮主任主事 今回、令和5年度の残食率の集計ができたので、令和4年度と比較した記録の状況を、協7-1にあるような形で報告させていただきます。3月の教育委員会でも、残食については報告させていただいたところですが、学校現場においても残食について取り組んでいただいております。給食センターとしても適切な量・栄養価を提供できるように、献立等を努めているところです。センターにおいては、返却された給食の残食を日々メニューごとに詳細に計量し、主食・副食等残食の状況を確認しています。その上で、栄養教諭が小中学校に出向き、資料提供・情報共有を行うとともに、食育指導を進めているところです。今年度は、全校はもちろんですが、全127クラス、給食指導に赴くように計画しています。今年度は1ヶ月ぐらい経ったのですが、15クラスに伺っているところです。表の中のことで、令和4年度に比べて小学校は14.82%から15.51%に、0.69%増加しています。中学校の方は23.30%から21.0%、2.3%減少しています。幼稚園を含めたセンター全体としては、0.51%の減少となっているところです。学校間の格差も、令和4年度は15.65%だったのですが、令和5年度は10.36%に小さくなっている状況です。学期別ですが、1学期は新学年になったこともあって、予定よりも係数を下げて少ない量で提供しています。残食等の状況をこれで見ると、2学期・3学期は係数を上げて増やすようにはしているのですが、残食率はそんなに変わっていないところを見ると、係数を上げて増やした分は提供量として食べてもらっているとこちらは認知しています。こういう状況ですので、令和6年度も残食について取り組んでいきたいと思っています。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

東山委員 全国レベルで残食率と言ったら、どのぐらいのものなのですか。調べてみたら2015年に環境省が出している残食率が、全国的に6.9%というものがありません。それと比べると、笠岡市はすごく多い気がしました。他市町を調べてみると津山で、2021年で小学校は4.5%ですごく少ないなと思ったのです。でも中学校は15.7%とか17.9%とか書いてあるから、中学校はまあいいのですが、小学校はよそも結構食べているのかと思っています。

宮主任主事 この点については、旧給食センターでは多分、残食を調べたらもっと低

い数字だったのです。と申しますのが、前も残食について説明させていただいていますが、要するに汁ですね、水分量を含むか含まないか、学校によっては完全にざるで水分を落としてしまって、固形物だけを計量していると、やはりその分は少なくなります。それで言うと、笠岡市の場合は汁も含めて、その中に栄養価があるものとして計算しているの、他市または国と比べることは少し異なっているかと思っているの、センターの中での計量で進めさせていただいているところではあります。

東山委員 単純に比較してはいけないというところ、1つ良いなと思ったところがあって、葛飾区がホームページに小学校ごとの残食量を載せられていて、すごく意識されていて、保護者もそういうのを見た時に、「気を付けなければいけない」という、家庭教育にも意識改革として繋がるものがあるかなということも思ったので、何かアイデアとしていただければと思います。

宮主任主事 各学校の校長へは、毎回計量である程度一定の数値が出た時に、その学校の中だけですが、前年比とか前学期比とかいう形で努力をされていることを、結果として数値でご報告はさせてもらっています。それで市全体の学校の平均値であるとか、自分の学校がそれより多いか少ないかという比較ができるようには報告させています。さすがに全校のものをそのままという報告は、今はしていないので、それについてはまた相談させていただきながらにしたいと思います。

岡田教育長 確認ですが、残食率が多いというのは、単純に言うと栄養価がそれだけ摂れていないという言い方になるのですか。

宮主任主事 摂れていないというか、提供量を食べていないということになります。

岡田教育長 カロリー計算をした時に、学年によって必要な栄養価とか量があるので、食べないということはカロリーが、それに満たないですね。だから、他と比べてみて、それが高いという風に言える可能性はあります。

宮主任主事 欠席者が多い所では食べていないのは当たり前なので、その部分まで計算した上での詳細なものを、3月の時にお出ししていると思うのです。それで言うと、今委員さんが言われたように、かなり残食率は下がります。この数字よりもかなり、5%ぐらいは下がった数字で出てくるので、他市の数字についてもそこまで計算しているかということになります。今年度からは一応欠席者も、日々学校から報告を受けていますが、計算し直すのは大変なので、すぐにはできないのですけれども、できればどこかでピンポイントで計算をさせていただいて、欠席までを加味してもなお差が出ている学校があるのであれば、栄養教諭を現場に行かせていただいで、指導させていただこうとは思っています。

東山委員 1人のお子さんにつきどのぐらい残しているかという計算を考えるとしたら、今言われたような数字も分かった方が良いのかと、そこで栄養がある程度足りていないというところになるのかと思います。

岡田教育長 理由というものが、単純な話として分かりやすく何かあるのですか。残食が高い理由というか、センターとして把握できているものがあるのですか。

宮主任主事 家庭での食事の提供の仕方、3分の1が学校で食べている量なのですが、その部分に影響しているのは家庭での食育がある程度あるのと、アレルギーとか個別対応しなければいけない部分があって、それを強要するというのもできないという部分もあります。結局、一昔前と違って個人的な理由が結構あって、なかなか指導もそこまで手が届かないとか、追いついていかないというところもあります。

岡田教育長 出口参事、学校が給食時間を、昔はちゃんと確保できていないことを議会からも質問いただいて、指導してきた経緯があるのですが、今現在はその辺はきちんと取っていただいていますか。

出口参事 学校の先生、担任の先生に意識をしていただいています。そして、栄養教諭も陸地部に2名配置、島しょ部に1名配置しているので、年間数回にはなりますが、各学校に栄養指導には行って、バランス良い食事の大切さの話はしています。

岡田教育長 昔は残さず食べなさいと言って、無理やり食べさせていた時代があったのですが、それは今はできない。体罰ではないのですが、何かそういう風になるので、できないとなっていることは理解ください。そういう難しさがある中で、先ほど宮さんが言われたような視点の中で、どういう努力ができるかというのは、やはり栄養価が足りている・足りていない、その辺は学校での集中力に影響するとかいう、医学的なデータもあるではないですか。その辺もあるので、今後検討課題とさせていただきます。

宮主任主事 先ほど申したように、今年度からは全クラスに直接お邪魔させてもらっているのですが、指導に入ったクラスはその後減少しています。そういうところははっきり分かっているのですが、やはり指導があればそれなりに減っていくであろうという想定はあるので、今年度はほとんど栄養教諭が出っぱなしになっているのですが、良い結果が出ればと期待はしているところで

出口参事 学校の先生ではない先生から指導されるのは、かなり影響があると思います。

宮主任主事 中学校でもかなり減ってきています。

東山委員 笠岡市の給食センターは、私はすごく頑張ってくださいっているなと思い

ます。家庭教育の方が少し足りていないのかなと思います。

宮主任主事 例えば去年行った所へ、今年もう1回その先生が行かれると、子ども達はよく去年の指導のことを分かっているのです、やはり全然違います。

東山委員 オープンスクールの時とかに、給食についての残食量だっりの情報提供を、保護者や地域も見られるようなものもあつたらいいなと思います。

岡田教育長 何年も取り組んでいるけれども、そんなに効果的なものが見られないから、どうしたら良いのかというのが悩みです。

東山委員 数字に現れないのがもどかしいなと思います。

岡田教育長 またこれは継続的に。よろしくお願いします。

(8) その他

- 笠岡信用組合からの特別展「山形美術館 服部コレクション展(仮)」の展覧会への協賛金の申し出について (生涯学習課)

- 移動図書館車かぶとがに号新車両一般公開について(報告)(生涯学習課)

石井課長 1点目は笠岡信用組合からの、特別展「山形美術館服部コレクション展(仮)」の展覧会への協賛金の申し出ということで、このたび笠岡信用組合から、寄附額100万円の寄附の話があります。こちらの寄附受納式、令和6年7月初旬あたりと記載していますが、今の予定では6月6日にほぼ日程が定まりそうだということで聞いています。寄附の使途ですが、これは7月から始まる企画展への寄附協賛金で、この企画展は今回は少し趣向を凝らして、ピカソなどの油絵などもある、各地でも非常に人気が高い企画を展開したいと考えています。お話を差し上げたところ、スポンサー料と言いますか、広告協賛のような形で参画をしていただけるような調整に入っています。予算措置としてはこの6月補正予算に寄附金として計上することと、広告料とかそれに伴う著作権料などに充てさせていただくということで、具体的に協議をしながら進めていきたいと考えています。笠岡信用組合のスポンサー名を入れなどしながら、広報活動の拡大を図れるように展開していきたいと思うので、また楽しみにしていただきたいと思っています。

それから次のページ。こちらが報告ということで、4月29日に笠岡こどもフェスティバルを実施して、記載はありませんが、当日は2,600人という多くの方にお運びをいただきました。午後からは雨でしたが、午前中から午後にかけて、外では移動図書館車かぶとがに号の新車両の一般公開という機会を作ることによって、新車両の良いスタートが切れたのではないかと考えています。室内というか車内も見えていただけるような展開もし、顔出しパネルをもって映えるスポットも設けて、雨の中ですが、皆さ

んに熱心に見ていただくような場面が提供できました。またノベルティグッズ、40枚という数ではありましたが、こちらについても大変喜んで手にしていただくことになりました。

岡田教育長 それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

● **令和6年度教育行政実施計画(案)について(教育総務課)**

松尾課長 本日、机の上に配付の令和6年度教育行政実施計画(案)ですが、これは4月の定例会で配布させていただいて、その後、教育委員の皆様から指摘等いただいた点を加筆・修正したものになっています。またじっくりとご覧いただき、もし修正とか何かお気づきの点があったら、5月中に連絡いただければと思います。もしないようでしたらこの案を取らせていただいて、正式なものとしてホームページ等に公表していきたいと考えているので、また確認等、よろしくお願いします。

岡田教育長 それでは、確認をよろしくお願いします。何かありましたら、メール等でお知らせください。それでは、何か委員の皆様からご質問・ご意見はありませんか。

教育委員 (なし)

● **令和6年度市町村教育委員会研究協議会について(教育総務課)**

藤代課長補佐 机の上に配付の「令和6年度市町村教育委員会研究協議会」という資料をご覧ください。これは文科省が開催している、教育委員・教育長を対象にした研修です。今回は2番のところに記載の、前期の第1回から第3回目までについての案内になります。第1回目はオンラインで開催で、第2回目・第3回目は仙台と大阪で開催するのですが、第1回目をもし受講される場合は、申し出ていただけたらと思います。2ページ目の一番下のところにスケジュール的なものを書いてあって、半日を通して行政システムであったり、分科会でグループ協議をしていただくようなものになります。1枚めくっていただいて、分科会でいろいろなテーマを行っていただくもので、5番のところで参加の申し込みについてなのですが、参加は教育総務課が取りまとめるので、23日の木曜日までに教育総務課までメール等で連絡をいただき、第1回目の受講希望と伝えていただけたらと思います。あとはオンライン研修を自宅等で受講できるのですが、要望があったら教育委員会の会議室等でも受講が可能ですので、お申し付けください。パソコンの貸し出しも可能です。

岡田教育長 それでは、他にありますか。

● 令和7年度中学校の教科書採択について（学校教育課）

出口参事 令和7年度から使用の、中学校の教科書採択の年に今年度がなっています。それで、笠岡市・井原市・矢掛町の3市町で協議会を立ち上げて、これから採択にかかっていくのですが、教育長、それから教育委員で協議会を立ち上げて、そこに藤谷委員には代表で出ていただいています。それで今日は、検定に合格している教科書をあの隅の方に、見本本を置いているので、藤谷委員の他3名の委員については、気になる教科書、教科だけでも結構なので、手に取ってもらったり、お家に持って帰ってもらったりということで用意しています。この後案内します。藤谷委員にはもうすでに1式渡しています。

岡田教育長 配慮するようなことがあれば、その扱いを伝えておいた方がいいのではないですか。

出口参事 これは世に出回っていないものなので、家族でもあまり目に触れない方が良いでしょう。

岡田教育長 自身だけ見ていただくことになると思います。何か分からないことがあったら、学校教育課の方まで問い合わせください。よろしく願います。委員の皆様からはよろしいですか。

教育委員 （なし）

岡田教育長 ありがとうございます。これをもちまして、5月の教育委員会定例会を終了します。ありがとうございました。